

「やってはいけない」では「やってはいけない」 時代の情報モラル教育



NPO 法人企業教育研究会 事務局 ^{いちの}市野 ^{けいすけ}敬介

1 自己紹介

みなさま、はじめましての方も、そうでない方も。私は「市野敬介」と申します。さて、私は何者か、まずは検索エンジンで「市野敬介」と検索してみてください。

2 機器を活用して双方向性を出したい

近年、小学校や中学校では1人1台の端末が利用できるようになっています。高校や特別支援学校でも、生徒が自分のスマートフォンや学校にあるタブレットを活用できるようになってきました。

誰もが気軽にSNSに文字や画像、動画を投稿できる時代になっています。その中でどんなことに気を付ければよいのか、というお題をいただいた時には、授業の冒頭や途中で上記のように検索してわかったことをグーグルなどのフォームを使って投稿してもらう活動を取り入れています。

今のところ「市野敬介」の4文字で検索すると、同姓同名の他の人の情報は出てきません。5分もしないうちに、私の仕事のことや出身地、居住地、千葉ロッテマリーンズを愛してやまないことや、連載しているエッセイのことなど、様々な情報が出てきます。

自分が知らない間に記事になっていた過去の記録が掘り起こされることもあり、みなさんの検索能力には頭が下がります。

ツイッターやフェイスブックの古い記事にまでたどり着いてベランダでエノキダケを干していたことを発見する生徒もありました。自分ではそんな投稿していたことは忘れていたのに……。

3 匿名で発信する環境を作ると

児童・生徒が発見した私に関する情報をみんなで見つめていくうちに、私の見た目に関するのりや、一歩間違えば誹謗・中傷になるような書き込みも混じってきます。もしくは事実ではない偽の情報も紛れこみます。

「ああ。匿名性が担保されているから書き放題ですね。データとして、貴重なサンプルにさせてもらいます。」というところまで、約10分。ここから様々なことが分かります。

- 情報の断片も集まるといろいろ解る
- 匿名性が高いと誹謗・中傷がおきやすい

そして、これは人の手で検索した情報の集積に過ぎず、今後は人工知能などと組み合わせ、その人が発信してきた公開・非公開を問わず、あらゆる情報を検索して、その人のことを知る事ができる可能性もあります。

「青少年のうちに投稿したことが、将来の自分を傷つけることにはならないか？」という問いかけを、身を削りながら行っています。

これは青少年だけでなく大人も同じ。みんなにとっても有益な情報を発信するインターネットの使い方はどうしたらよいか、授業や講演を行いながら、私も学んでいます。

4 2022年度になって増えた依頼

児童・生徒がオンラインゲームで悪口を言うことに関する啓発依頼が増えています。ゲームは興奮や焦りで我を失いやすいことを客観的に認識してもらうようにしています。

例えば、少し急いでいるときに前方を法定速度で走る車を追い抜けないと不機嫌になって口が悪くなるドライバーがいるように。

令和4年度調査研究事業 「ネットワークを活用した家庭との連携に関する研究 ～1人1台端末の活用を通して～」について

県総合教育センターカリキュラム開発部メディア教育担当

1人1台端末の日常使い

本年度に入り、研究協力いただいている横芝光町の二つの中学校と五つの小学校の研究協力員の先生方には、状況調査等、オンライン形式での打合せに複数回にわたり参加いただいた。これまでの萩号、蓮号でも触れているように、1人1台端末を授業や家庭学習の中で、より効果的に活用するためには、事前の操作理解が重要である。それは、児童生徒が端末を操作することに意識の大半を削がれてしまい、本来の目的である学習内容についての思考が深まらないことへの懸念はもちろん、授業を行う側である先生方が自信をもって授業を行うためにも言えることである。各市町村が導入している端末やクラウド環境（横芝光町ではMicrosoft365）には、どんな機能があるのか。また、児童生徒がそれを扱った時のリアクションはどのようなものなのか、どの学習場面でどのようなツールが効果的なのか等、イメージをもって授業計画を立て、実践し、その効果を検証したいところである。

そこで、各市町村、各学校で検討する必要があるのが、授業等直接的な学習場面以外のどの場面で、端末活用を取り入れていくかということである。何故、「各市町村、各学校」と記述したかと言えば、ICT機器活用が得意である、または興味のある先生方だけではな

く、苦手を感じている、又は授業への導入イメージがなかなかもてずにいる先生方についても端末活用を定着させるためには、市町村単位、又は学校単位で共通の認識をもって活用に取り組んでいく必要があるからである。

横芝光町では、各学校の活用状況に違いがあったため、活用方法等の細かい部分については協議をしながら行った。協議から出てきた課題の中で、他の市町村にも共通して予想される課題として、

- 1 各自治体で導入している校務支援システムがすでにあり、職員間の連絡ツールとしての活用を考えた時に、機能の重複があり、情報集約の場を統一できない。
- 2 保護者との連絡（出欠席や学校情報の伝達）ツールとして、それに特化した別のツールが既に定着している。
- 3 職員一人に一つのアカウント（または端末）が整備されておらず、職員間での連絡ツールとしての活用ができない。

の三点が明らかになってきている。

このような状況から、今回は「児童生徒と教員」との活用場面について検討を進めたが、理想としては、「教員と教員」の間で積極的に端末を活用し、クラウド利用について感覚を身に付けていくことが、学習の中でスムーズな端末活用を実現するための、より効果的で効果的な方法であると考えている。

◎◎ 講師派遣のお知らせ ◎◎ 県内の先生方を全力でサポートします！

- ・GIGA 端末・クラウドを活用して協働学習をできるようにしたい
- ・プログラミング教育をさらに進めたい
- ・情報モラル教育を推進したい

等

教育の情報化に関する内容についてのアドバイスや教職員対象の研修講師を承ります。
詳しくは、県総セWeb＞学校支援／授業支援＞情報・ICT教育＞学校支援をご覧ください。

